

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）						3 事業評価（Check）						
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】				事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず		
施策領域		第2節 高齢者福祉				事業の必要性 【市民ニーズ】		B		A：高まっている B：変わらない C：薄れている		
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実				事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある		
事業		高齢者住宅管理				施策への貢献度		B		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い		
所属		長寿はつつ課				事業の成果・分析				市が借り上げた集合住宅「長寿荘」を住宅に困窮している高齢者に提供することで、高齢者の生活の安定に一定の成果があった。 一定の需要はあるが、建物の築年数の経過により老朽化も進んでいくため、借上料の減額や今後の事業のあり方についても見直す余地はある。		
事業概要		住宅に困窮しているひとり暮らしの高齢者（65歳以上）を対象として、生活の安定と福祉の増進を図るため、所得に応じた家賃で市の高齢者住宅を提供する。										
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他										
実施根拠		□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度										
根拠法令等		新座市高齢者住宅条例										
2 事業実績（Do）						4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
予算・決算	予算現額（円）		6,781,000		7,088,000							
	財源内訳	一般財源	2,904,000		3,211,000							
		特定財源等	3,877,000		3,877,000							
	支出済額（円）		6,729,057		7,078,665							
	不用額（円）		51,943		9,335							
執行率（％）		99.23%		99.87%								
実施内容		住宅に困窮している高齢者に住宅を提供し、その生活の安定と福祉の増進を図った。 新座市高齢者住宅「長寿荘」 部屋数 8室 令和6年度実績 入居者 7名 ※令和6年度末										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位										
	提供部屋数	室	8	6								
今後の方向性		II		I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了								
今後の取組方針		建物の賃貸借期間が長期間となっており、また、入居者への影響もあることから大きな事業内容の変更は困難だが、建物の築年数が経過するなど状況が変化していくため、借上料の減額など契約更新時に事業内容の修正を検討していく。 現在の建物賃貸借契約期間： 平成24年6月1日から平成44年（令和14年）5月31日までの20年間										

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート (対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報 (Plan)						3 事業評価 (Check)						
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】				事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず		
施策領域		第2節 高齢者福祉				事業の必要性【市民ニーズ】		B		A：高まっている B：変わらない C：薄れている		
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実				事業の効率性【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある		
事業		老人クラブ活動支援				施策への貢献度		B		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い		
所属		長寿はつらつ課				事業の成果・分析		新型コロナウイルス感染症の流行以降、事業を縮小もしくは廃止せざるを得ない状況が続いていたが、令和6年度については、一年を通してほぼ計画どおりに実施することができた。一方で会員の高齢化や単位クラブ会長の後任者不足などにより、活動継続が困難となり、解散するクラブや会員数が減少するクラブも多数あり、老人クラブ連合会全体としても会員数は減少傾向にある。これに伴い、繰越金が発生している状況であるため、令和8年度以降の補助金額について見直す余地はある。				
事業概要		老後の生活を健康で豊かなものにするため、地域の高齢者が集まり、様々な文化活動や社会参加活動を通じて教養の向上や健康増進を図るとともに、地域社会との交流の場を提供する老人クラブ活動に対し、助成を行う。										
実施形態		☒ 市が直接実施 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託・指定管理 ☐ その他										
実施根拠		☒ 国・県の制度 ☐ 国・県の制度＋市独自の制度 ☐ 市独自の制度										
根拠法令等		老人福祉法（第13条第2項）										
2 事業実績 (Do)						4 事業の今後の方向性・取組方針 (Action)						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
予算・決算	予算現額（円）		4,458,000		4,197,000							
	財源内訳	一般財源	3,953,000		3,702,000							
		特定財源等	505,000		495,000							
	支出済額（円）		4,309,926		3,255,587							
	不用額（円）		148,074		941,413							
執行率（％）		96.68%		77.57%								
実施内容		文化・地域活動の場の提供のほか多様な社会参加活動を推進するため、老人クラブ連合会へ活動支援を行った。										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位										
	単位クラブ数	クラブ	32		29							
	会員数	人	1435		1287							
今後の方向性		II		I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了								
今後の取組方針		単位クラブごとに会員数を増やすように活動はしているが、「事業の成果・分析」欄に記載のような理由により会員数は減少傾向である。各種事業は老人クラブ連合会全体を活気づけるためにも引き続き行っていく必要はあるが、事業規模や予算については適切な程度を見定めていく。										

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報 (Plan)

基本政策	第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】
施策領域	第2節 高齢者福祉
施策項目	施策 1 高齢者福祉の充実
事業	高齢者いきいき広場管理
所属	長寿はつつ課
事業概要	高齢者の健康の保持増進及び介護予防を図るため、趣味活動や仲間づくり、世代間交流の場として、地域の高齢者が気軽に憩える高齢者いきいき広場の充実を図る。
実施形態	☒ 市が直接実施 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託・指定管理 ☐ その他
実施根拠	☐ 国・県の制度 ☐ 国・県の制度＋市独自の制度 ☒ 市独自の制度
根拠法令等	新座市高齢者いきいき広場条例

3 事業評価 (Check)

事業の実施状況	B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず
事業の必要性 【市民ニーズ】	B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている
事業の効率性 【見直す余地】	B	A：余地はない B：余地はある
施策への貢献度	A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い
事業の成果・分析	地域の高齢者が気軽に憩い、趣味活動や仲間づくり、世代間交流の場として高齢者の健康の保持増進及び介護予防を図った。	

2 事業実績 (Do)

年度			令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
予算・ 決算	予算現額（円）		13,027,000	15,996,000			
	財源内訳	一般財源	13,027,000	13,888,000			
		特定財源等	0	2,108,000			
	支出済額（円）		12,141,394	15,671,577			
	不用額（円）		885,606	324,423			
	執行率（％）		93.20%	97.97%			
実施内容			高齢者の健康の保持増進及び介護予防を図るため、趣味活動や仲間づくり、世代間交流の場として、高齢者いきいき広場を５か所設置し、高齢者の健康の保持増進及び介護予防を図った。 令和６年度から、「重層的支援体制整備事業」の一環として、新座市社会福祉協議会に管理運営を託し、地域福祉の拠点としても活用できるよう、検討しているところである。 開館日数：1,437日（令和７年３月３１日時点）				
年度			令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
	指標名	単位					
活動 指標・ 成果 指標	利用者数	人	21,589	25,526			

4 事業の今後の方向性・取組方針 (Action)

今後の方向性	Ⅱ	I：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了
今後の取組方針	多くの高齢者が気軽に憩うことができ、健康づくりに役立つ場を提供できるよう、各地域の利用者のニーズに合わせた効果的な運営を推進していく。 「重層的支援体制整備事業」の一環として、高齢者いきいき広場を地域福祉の拠点として活用していく。	

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1

事業基礎情報（Plan）

基本政策	第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】
施策領域	第2節 高齢者福祉
施策項目	施策 1 高齢者福祉の充実
事業	シルバー人材センター支援
所属	長寿はつらつ課
事業概要	定年退職などにより引退した高齢者を会員として、就業の場を提供することにより、高齢者に働きがいと生きがいを与えるとともに、活力ある地域社会づくりを目的とする公益社団法人新座市シルバー人材センターに対し、運営費の一部について助成を行う。
実施形態	■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他
実施根拠	□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度
根拠法令等	公益社団法人新座市シルバー人材センター補助金交付要綱

3

事業評価（Check）

事業の実施状況	B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず
事業の必要性【市民ニーズ】	B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている
事業の効率性【見直す余地】	A	A：余地はない B：余地はある
施策への貢献度	A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の割合が低い
事業の成果・分析	活力ある地域社会づくりを目的とする公益社団法人新座市シルバー人材センターに対して運営費の一部を助成することで、高齢者に働きがいと生きがいを与えることへの一助となった。	

2

事業実績（Do）

年度			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算・決算	予算現額（円）		19,382,000	19,630,000			
	財源内訳	一般財源	19,382,000	19,630,000			
		特定財源等	0	0			
	支出済額（円）		12,644,854	13,336,364			
	不用額（円）		6,737,146	6,293,636			
	執行率（％）		65.24%	67.94%			
実施内容			公益社団法人新座市シルバー人材センターに対し、運営費の一部について助成を行った。				
年度			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	指標名	単位					
活動指標・成果指標	会員数（年度末）	人	1,685	1,670			

4

事業の今後の方向性・取組方針（Action）

今後の方向性	Ⅲ	I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了
今後の取組方針	引き続き運営費の一部について助成を行う。	

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）						3 事業評価（Check）						
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】				事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず			
施策領域		第2節 高齢者福祉				事業の必要性 【市民ニーズ】		A	A：高まっている B：変わらない C：薄れている			
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実				事業の効率性 【見直す余地】		B	A：余地はない B：余地はある			
事業		緊急連絡システム				施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い			
所属		長寿はつらつ課				事業の成果・分析		高齢化の進行により、ひとり暮らし高齢者が増加し、見守り事業の重要性が高まっている中で、当事業は、ひとり暮らし等高齢者を対象に実施しているため、新座市で安心して生活できる体制に貢献している。 しかしながら、固定電話を設置している世帯のみが対象となっているため、固定電話を持たない高齢者も、新座市で安心して生活できる体制とするために、事業改善の余地がある。また、外出時の緊急事態に対応できないことや、対象者の範囲が広く、持病の有無に関わらず無料で利用可能な点についても課題があり、事業として改善の余地がある。				
事業概要		65歳以上のひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯を対象として、急病や事故等緊急事態時に子機のボタンを押すと、自動的に埼玉県南西部消防局指令センターに通報され、直ちに救急活動が行われる緊急連絡システム機器を対象者宅に設置する。										
実施形態		□市が直接実施 □一部委託 ■全部委託・指定管理 □その他										
実施根拠		□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度										
根拠法令等		新座市ひとり暮らし老人、重度身体障がい者等緊急連絡システム事業実施要綱										
2 事業実績（Do）						4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
予算・決算	予算現額（円）		40,253,000		39,654,000							
	財源内訳	一般財源	40,253,000		39,654,000							
		特定財源等	0		0							
	支出済額（円）		39,760,564		39,355,476							
	不用額（円）		492,436		298,524							
	執行率（％）		98.78%		99.25%							
実施内容			市が対象者として決定した者の自宅の固定電話に、委託事業者が緊急連絡システム機器を設置した。									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位										
	緊急連絡システム設置台数（新規）	台	280		218							
	緊急連絡システム設置台数（総数）	台	1889		1817							
今後の方向性		Ⅱ		Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了								
今後の取組方針		今後の高齢者人口の増加に備え、事業を持続可能なものにしていくために、令和7年10月以降の新規申請者について、原則高齢者のみ世帯以外は対象外とし、慢性的な心疾患等がない者（事業改正前の利用者含め）には、利用者負担を求める形に変更するとともに、明確な実施時期は未定だが、利用者の利便性を考慮し、スマートフォンから通報できる仕組みについて、調整を進めていく。 また、令和8年度以降は、新たな見守りサービス事業の導入についても検討を進めていく。										

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）										
基本政策		第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず						
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている						
施策項目		施策1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある						
事業		配食サービス					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い						
所属		長寿はつらつ課					事業の成果・分析				高齢化の進行により、ひとり暮らしの高齢者が増加し、見守り事業の重要性が高まっている中で、当事業は、ひとり暮らし等高齢者を対象に実施しているため、新座市で安心して生活できる体制に貢献している。 しかしながら、物価高騰が著しい中、制度上、価格が固定されている状況のため、今後の利用者数の増加を想定し、委託事業者の負担を減らすことができるように、事業の見直しを検討していきたい。						
事業概要		おおむね65歳以上のひとり暮らしの高齢者又は高齢者世帯を対象として、月曜日から土曜日までの週6日の範囲内で、安否確認を兼ねて昼食の宅配を行う。															
実施形態		☐ 市が直接実施 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託・指定管理 ☐ その他															
実施根拠		☐ 国・県の制度 ☐ 国・県の制度＋市独自の制度 ☒ 市独自の制度															
根拠法令等		新座市高齢者配食サービス事業実施要綱															
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ		Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了	
予算・決算	予算現額（円）		33,170,000		33,499,000												
	財源内訳	一般財源	33,170,000		33,499,000												
		特定財源等	0		0												
	支出済額（円）		31,958,650		33,085,400												
	不用額（円）		1,211,350		413,600												
執行率（％）		96.35%		98.77%													
実施内容		市が対象者として決定した者に、委託事業者が月曜日から土曜日までの週6日の範囲内（対象者の任意）で、安否確認を兼ねて昼食の宅配を行った。 また、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けた配食サービスを実施している市内の社会福祉法人及びNPO法人（計3団体）に対し、令和6年6月に物価高騰対策支援金を交付した。					今後の取組方針				利用者は食材料費等の実費として、1食につき450円を負担しているが、物価高騰の影響により、今までどおりの金額では、委託事業者の経営に大きな影響を与えと考え、令和7年10月から、利用者負担額を各事業者が設定した金額に変更する。						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度							令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位															
	延べ配食数	食	95,697		101,427												
	利用者数	人	819		846												

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）											
基本政策		第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず							
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		B		A：高まっている B：変わらない C：薄れている							
施策項目		施策1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある							
事業		寝具乾燥サービス					施策への貢献度		B		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い							
所属		長寿はつらつ課					事業の成果・分析				当事業は、寝具を干すことが難しい高齢者の生活支援及び同居家族への負担軽減に貢献している。 しかしながら、委託可能な事業者の減少、委託料の増加、月ごとの派遣回数の偏りなどの課題もあるため、事業内容の見直しを検討していきたい。							
事業概要		おおむね65歳以上のひとり暮らしの高齢者又は寝たきりの高齢者のいる世帯で、自宅において寝具を干すことができない者を対象として、布団乾燥車を派遣して寝具乾燥を行う。																
実施形態		☐ 市が直接実施 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託・指定管理 ☐ その他																
実施根拠		☐ 国・県の制度 ☐ 国・県の制度＋市独自の制度 ☒ 市独自の制度																
根拠法令等		新座市在宅老人及び身体障がい者寝具乾燥車派遣事業実施要綱																
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）											
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		IV Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了				
予算・決算	予算現額（円）		1,360,000		1,559,000													
	財源内訳	一般財源	1,360,000		1,559,000													
		特定財源等	0		0													
	支出済額（円）		1,359,600		1,151,425													
	不用額（円）		400		407,575													
執行率（％）		99.97%		73.86%														
実施内容		市が対象者として決定した者の自宅に、委託事業者（布団乾燥車）を派遣して寝具乾燥を行った。 派遣回数（上限）は13回で、原則月1回、6月と2月は月2回、8月は実施しないものとしている。					今後の取組方針					他市の実施状況を踏まえ、事業廃止も視野に事業の在り方を見直していく。						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度								令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位																
	延べ派遣回数	回	310		265													
	利用者数	人	38		39													

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）										
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず						
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性【市民ニーズ】		B		A：高まっている B：変わらない C：薄れている						
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実					事業の効率性【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある						
事業		高齢者おむつ等給付					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い						
所属		長寿はつらつ課					事業の成果・分析				高齢者の生活を支援するサービスとして、施策に貢献している。 しかし、年々対象者数が増加し、予算額も増加しているため、今後の高齢者数の増加を見込んだ上で、持続可能なサービスとしていくための見直しをする必要性がある。						
事業概要		要介護1～5に該当する、65歳以上の常時失禁状態の高齢者で、全ての世帯員の市民税所得割額が47,800円以下の者に対し、おむつ等の給付を行う。															
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他															
実施根拠		□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度															
根拠法令等		新座市高齢者おむつ等給付事業実施要綱															
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		IV I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了			
予算・決算	予算現額（円）		86,120,000		96,462,000												
	財源内訳	一般財源	86,120,000		96,462,000												
		特定財源等	0		0												
	支出済額（円）		86,119,026		96,461,585												
	不用額（円）		974		415												
執行率（％）		100.00%		100.00%													
実施内容		市が対象者として決定した者に、おむつ給付券（申請月に応じた枚数（月1枚。年度内最大12枚。）×上限7,000円（/枚））を交付した。 また、対象者からの申請に基づき給付を行った。					今後の取組方針				今後の高齢者人口増加を見込んだ上で、持続可能なサービスとしていくために、令和7年10月からおむつ給付券の1月当たりの助成上限額を7,000円から6,000円に変更する。						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度							令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位															
	延べ利用件数（給付申請件数）	件	12,741		14,277												
	利用者（給付者の実人数）	人	1680		1868												

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）										
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず						
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		B		A：高まっている B：変わらない C：薄れている						
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある						
事業		重度要介護高齢者手当					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い						
所属		長寿はつらつ課					事業の成果・分析				高齢者の生活を支援するサービスとして、施策に貢献している。 支給額や対象者要件の見直しを定期的に行っているため、今後も必要に応じて、事業の見直しを検討していきたい。						
事業概要		65歳以上の要介護4又は5に該当する高齢者で、全ての世帯員の市民税が非課税の者を対象として、年3回（4月・8月・12月）、月額5,000円の重度要介護高齢者手当を支給する。															
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他															
実施根拠		□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度															
根拠法令等		新座市重度要介護高齢者手当支給条例															
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了			
予算・決算	予算現額（円）		16,430,000		16,755,000												
	財源内訳	一般財源	16,430,000		16,755,000												
		特定財源等	0		0												
	支出済額（円）		16,340,000		16,350,000												
	不用額（円）		90,000		405,000												
執行率（％）		99.45%		97.58%													
実施内容		市が対象者として決定した者に、重度要介護高齢者手当を支給した。					今後の取組方針				今後の高齢者人口増加を見込んだ上で、持続可能なサービスとしていくために、必要に応じて事業の見直しを検討していく。						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度							令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位															
	延べ支給回数	回	3,268		3,270												
	利用者（実人数）	人	432		445												

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）								
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず					
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている					
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		A	A：余地はない B：余地はある					
事業		高齢者移送サービス					施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い					
所属		長寿はつらつ課					事業の成果・分析		高齢者の生活を支援するサービスとして、施策に貢献している。						
事業概要		介護保険施設に入所していない要介護3、4又は5に該当する65歳以上の寝たきりの状態等にある高齢者で、全ての世帯員の市民税所得割額が47,800円以下の者を対象として、寝台や車椅子に乗りながら乗降できる移送用車両による移送サービスを利用した場合に、費用の9割を助成する（ただし、通院等に関する利用に限る。）。													
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他													
実施根拠		□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度													
根拠法令等		新座市高齢者移送サービス費助成事業実施要綱													
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）								
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅲ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了	
予算・決算	予算現額（円）		3,445,000		3,716,000										
	財源内訳	一般財源	3,445,000		3,716,000										
		特定財源等	0		0										
	支出済額（円）		2,887,980		3,260,600										
	不用額（円）		557,020		455,400										
執行率（％）		83.83%		87.74%											
実施内容		市が対象者として決定した者に、移送サービス費助成利用証明書（申請月に応じた枚数（月1枚。年度内最大12枚。）×上限13,500円（/枚））を交付した。 また、対象者からの申請に基づき助成金の支給を行った。					今後の取組方針		現状では課題となる要望等はなく、利用者数も増加していることから、高齢者の生活を支援するサービスとして、今後も事業を継続していく。						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度					令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位													
	延べ利用件数（給付申請件数）	件	429		405										
	利用者（実人数）	人	101		138										

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）						3 事業評価（Check）						
基本政策		第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】				事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず			
施策領域		第2節 高齢者福祉				事業の必要性 【市民ニーズ】		A	A：高まっている B：変わらない C：薄れている			
施策項目		施策1 高齢者福祉の充実				事業の効率性 【見直す余地】		B	A：余地はない B：余地はある			
事業		高齢者保健事業				施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い			
所属		長寿はつらつ課				事業の成果・分析		高齢者人口の増加に伴い事業対象者も増加しており、現状、本事業経費のほぼ全額が広域連合から支給されている点を踏まえると、事業の必要性は高まっている。ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを組み合わせることで、幅広いニーズに合わせた対応が可能である。関係各課で定期的に情報共有や問題解決を図ることで、市として一體的な取り組みを行えたが、事業の運営方法により参加人数や効果が変わるため、実施方法を毎年、再検討する余地がある。				
事業概要		高齢者の心身の特性に応じ、健康管理及び疾病の予防に係る被保険者の自助努力についての支援、その他の被保険者の健康の保持増進を図ることを目的とし、埼玉県後期高齢者医療広域連合からの委託を受け、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業を行う。										
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他										
実施根拠		■国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度										
根拠法令等		高齢者の医療の確保に関する法律										
2 事業実績（Do）						4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
予算・決算	予算現額（円）		4,175,000		5,190,000							
	財源内訳	一般財源	162,000		792,000							
		特定財源等	4,013,000		4,398,000							
	支出済額（円）		3,842,224		4,922,468							
	不用額（円）		332,776		267,532							
執行率（％）		92.03%		94.85%								
実施内容		・国保データベース（KDB）システム（「健診・保健指導」「医療」「介護」の各種データを活用して、「統計情報」「個人の健康に関するデータ」を作成するシステム）を活用し、健診結果等の分析、支援対象者の把握を行った。 ・「低栄養防止・生活習慣病等の重症化予防の取組」や「口腔機能低下防止のための取組」等の対象者へ個別支援（ハイリスクアプローチ）として、相談支援等を行った。 ・通いの場等への積極的な関与等（ポピュレーションアプローチ）として講話を行った。 ・関係各課（介護保険課、国保年金課、保健センター）との調整会議を4回行った。										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
	指標名	単位										
活動指標・成果指標	延べ相談支援実施人数	人	23	66								
	講話開催回数	回	26	28								
	延べ講話参加人数	人	503	513								
	調整会議開催回数	回	4	4								
今後の方向性		II		I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了								
今後の取組方針		アプローチする対象者、その実施方法等、より効果的に行えるよう検討しながら継続していく。										

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1

事業基礎情報（Plan）

基本政策	第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】
施策領域	第2節 高齢者福祉
施策項目	施策1 高齢者福祉の充実
事業	人間ドック受診料補助金
所属	長寿はつらつ課
事業概要	後期高齢者医療被保険者の疾病の早期発見及び予防のため、市の指定医療機関で行う人間ドックの受診料の一部を助成する。
実施形態	■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他
実施根拠	■国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度
根拠法令等	高齢者の医療の確保に関する法律

3

事業評価（Check）

事業の実施状況	B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず
事業の必要性【市民ニーズ】	B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている
事業の効率性【見直す余地】	B	A：余地はない B：余地はある
施策への貢献度	A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い
事業の成果・分析	現在は、健康診査受診券送付時に案内を同封、ホームページ掲載、広報掲載、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業開催時に対面で周知・勧奨を行っているが、費用面での事業効果を検証するとともに、疾病の早期発見及び予防のために受診率向上が望まれているため別の方法についても検討し続ける必要がある。	

2

事業実績（Do）

年度			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算・決算	予算現額（円）		37,183,000	37,715,000			
	財源内訳	一般財源	23,183,000	23,113,000			
		特定財源等	14,000,000	14,602,000			
	支出済額（円）		35,368,544	37,714,578			
	不用額（円）		1,814,456	422			
	執行率（％）		95.12%	100.00%			
実施内容			市の指定医療機関で行う人間ドックの受診料の一部を助成した。 5月 朝霞地区医師会と4市で契約 6月 受診券送付 7月から3月 健診実施 助成額 36,019円（自己負担額5,000円）				
年度			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	指標名	単位					
活動指標・成果指標	受診率	％	5	5			

4

事業の今後の方向性・取組方針（Action）

今後の方向性	Ⅱ	Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了
今後の取組方針	受診率向上を目指し、受診勧奨方法を検討していく。	

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）									
基本政策		第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず					
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性【市民ニーズ】		B		A：高まっている B：変わらない C：薄れている					
施策項目		施策1 高齢者福祉の充実					事業の効率性【見直す余地】		A		A：余地はない B：余地はある					
事業		老人福祉センター・第二老人福祉センター運営管理					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い					
所属		長寿はつらつ課					事業の成果・分析				高齢者を対象にレクリエーションや各種趣味の教室を設けて、健康の増進や教養の向上、仲間づくりの場を提供するとともに、生活相談や健康相談を実施し、高齢者の生きがいづくりと社会参加を促進した。 なお、施設の老朽化により修繕等が頻発しており、今後の施設の在り方について検討する必要がある。					
事業概要		高齢者を対象に、各種の相談に応じるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーション等のサービスを総合的に提供するため、老人福祉センターの充実を図る。														
実施形態		☐ 市が直接実施 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託・指定管理 ☐ その他														
実施根拠		☐ 国・県の制度 ☒ 国・県の制度＋市独自の制度 ☐ 市独自の制度														
根拠法令等		老人福祉法、新座市老人福祉センター条例														
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅲ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了		
予算・決算	予算現額（円）		112,608,000		99,709,000											
	財源内訳	一般財源	112,355,000		99,259,000											
		特定財源等	253,000		450,000											
	支出済額（円）		93,811,459		99,608,372											
	不用額（円）		18,796,541		100,628											
執行率（％）		83.31%		99.90%												
実施内容		高齢者を対象に、レクリエーションや各種趣味の教室を設けて、健康の増進や教養の向上、仲間づくりの場を提供するとともに、悩みや心配事など生活上の相談や健康相談を実施する。 なお、令和4年度から令和8年度までは、地方自治法第244条の2第3項の規定による指定管理者制度を活用し、施設の管理を帝国ビル管理協同組合に委託している。 利用状況（延べ人数） 1 老人福祉センター 49,118人 2 第二老人福祉センター 57,419人					今後の取組方針		引き続き、高齢者の生きがいづくりの場を提供するとともに、各種相談、講座、サークル活動等利用者のニーズにあった事業を推進していく。 また、老人福祉センターの施設の在り方について検討していく。							
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度						令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位														
	利用者数	人	102,842		106,537											
	風呂入浴者数	人	61474		61507											
	サークル利用者数	人	17730		17672											

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）										
基本政策		第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず						
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性【市民ニーズ】		B		A：高まっている B：変わらない C：薄れている						
施策項目		施策1 高齢者福祉の充実					事業の効率性【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある						
事業		福祉の里老人福祉センター運営					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い						
所属		長寿はつらつ課					事業の成果・分析				相談、入浴、趣味の教室及びサークル活動等の多様なサービスを提供し、高齢者福祉の増進に寄与している。一方で、他の老人福祉センターと比較すると機能面で劣るものの、利用者数の向上が課題となっている。また、複合施設であるため、職員は他施設の業務を兼務している上、設備の配置も統一されていないことから、利用者にとってより利用しやすい施設となるよう、指定管理者制度の導入を含め、設備の配置や事業の見直しを検討していく。						
事業概要		高齢者を対象に、各種の相談に応じるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーション等のサービスを総合的に提供するため、老人福祉センターの充実を図る。															
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他															
実施根拠		□国・県の制度 ■国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度															
根拠法令等		老人福祉法、新座市老人福祉センター条例															
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了			
予算・決算	予算現額（円）		2,448,000		2,978,000												
	財源内訳	一般財源	2,447,000		2,935,000												
		特定財源等	1,000		43,000												
	支出済額（円）		2,400,207		2,921,460												
	不用額（円）		47,793		56,540												
執行率（％）		98.05%		98.10%													
実施内容		新座市老人福祉センター条例に基づき、福祉の里老人福祉センターの運営を行った。					今後の取組方針				地域の高齢者の健康の増進や教養の向上を図るため、サービスの提供を継続していく。また、福祉の里改修工事が令和7年8月末に完了したあと、10月にリニューアルオープン予定となっているため、それに合わせて管理業務について事業委託を行う。また、現在は市直営で運営を行っているが、業務の効率化を図るため、市内老人福祉センター3施設一括での指定管理者制度導入を検討していく。						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度							令和8年度		令和9年度		
	指標名	単位															
活動指標・成果指標	利用者数	人	12,611	12,420													
	風呂入浴者数	人	9444	9238													
	サークル利用者数	人	2669	2790													

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）						
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず		
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている		
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実					事業の効率性【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある		
事業		成年後見制度支援					施策への貢献度		B		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い		
所属		長寿はつらつ課					事業の成果・分析 認知症等により判断能力が低下し、親族と疎遠であったり身寄りがいない高齢者の権利擁護のため、成年後見人等を選任する必要がある場合に、市長による審判請求を行い、高齢者の福祉の増進に寄与することができた。 また、経済的に困窮している等の理由で、成年後見人等に報酬を支払う資力がない場合に、報酬に係る助成金を交付し、成年後見制度を安定して利用できるよう寄与することができた。						
事業概要		成年後見制度の利用促進を図るため、成年後見制度の審判請求を行った低所得者等に対し、申立費用や後見人等に対する報酬の助成を行う。 また、市長が成年後見（補助・保佐・後見）の審判請求を行う際の事務手続の一部を委託する。											
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他											
実施根拠		□国・県の制度 ■国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度											
根拠法令等		新座市成年後見制度における市長の審判請求の手続等に関する要綱											
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性 Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了	
予算・決算	予算現額（円）		9,118,000		7,058,000								
	財源内訳	一般財源	2,097,000		2,541,000								
		特定財源等	7,021,000		4,517,000								
	支出済額（円）		4,207,320		3,569,250								
	不用額（円）		4,910,680		3,488,750								
執行率（％）		46.14%		50.57%									
実施内容		成年後見制度の利用促進を図るため、成年後見制度の審判請求を行った低所得者等に対し、申立費用や後見人等に対する報酬の助成を行った。 また、市長が成年後見（補助・保佐・後見）の審判の申立てを行う際の手続きを円滑に進めるため、親族調査等事務手続の一部を委託した。					今後の取組方針 加速する超高齢化社会の中で、認知症等により判断能力が低下し、成年後見制度の利用を必要とする高齢者が増加している。こうした状況や、弁護士等の専門職後見人からの御意見を踏まえ、今後は、制度を必要とする方がより利用しやすくなるよう、適宜見直しを図り、改善しながら事業を継続していく。						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度			令和8年度		令和9年度		
	指標名	単位											
活動指標・成果指標	申立件数	件	4	3									
	助成件数	件	18	16									
	委託件数	件	2	2									

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）														
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず											
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている											
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		A	A：余地はない B：余地はある											
事業		介護認定審査会					施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い											
所属		介護保険課					事業の成果・分析		申請者の要介護度を公平かつ公正に審査・判定を行うことで、適切な介護サービスの利用促進を図り、介護保険制度の適切な運用に貢献した。												
事業概要		介護を必要とする被保険者からの申請に基づき、要介護及び要支援の認定について介護認定審査会を開催し、審査判定業務を実施する。																			
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他																			
実施根拠		■国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度																			
根拠法令等		介護保険法																			
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）														
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅲ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了							
予算・決算	予算現額（円）		29,599,000		28,310,000																
	財源内訳	一般財源	0		-207,000																
		特定財源等	29,599,000		28,517,000																
	支出済額（円）		23,349,276		25,914,327																
	不用額（円）		6,249,724		2,395,673																
執行率（％）		78.89%		91.54%																	
実施内容		介護を必要とする被保険者からの申請に基づく要介護及び要支援の認定の審査判定を行うため、介護認定審査会を開催した。 令和6年度 延べ260回					今後の取組方針					介護保険法により介護認定審査会において要介護及び要支援の認定に係る審査判定業務を行うことが義務付けられているため、引き続き事業を継続する。									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度											令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位																			
	介護認定審査会開催件数	回	231		260																

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）									
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず						
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている						
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		A	A：余地はない B：余地はある						
事業		認定調査					施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い						
所属		介護保険課					事業の成果・分析		適切に認定調査を実施することで、公平な介護認定を行い、適正な介護サービスの提供につながった。							
事業概要		要介護及び要支援の認定に当たり、申請者の心身の状況等に関する74項目について認定調査を実施する。														
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他														
実施根拠		■国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度														
根拠法令等		介護保険法														
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅲ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了		
予算・決算	予算現額（円）		86,523,000		101,336,000											
	財源内訳	一般財源	0		421,000											
		特定財源等	86,523,000		100,915,000											
	支出済額（円）		79,645,893		97,458,446											
	不用額（円）		6,877,107		3,877,554											
執行率（％）		92.05%		96.17%												
実施内容		要支援及び要介護の認定申請をした申請者に対し、訪問調査を行った。 介護認定調査員による調査だけでなく、遠方の施設に入居している申請者等の場合などは、居宅介護支援事業所等への委託による訪問調査も行った。					今後の取組方針		介護保険法により認定調査を行うことが義務付けられているため、引き続き事業を継続する。							
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度						令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位														
	訪問調査件数	件	6,864		7,847											

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート (対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報 (Plan)						3 事業評価 (Check)					
基本政策		第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】				事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず		
施策領域		第2節 高齢者福祉				事業の必要性 【市民ニーズ】		B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている		
施策項目		施策1 高齢者福祉の充実				事業の効率性 【見直す余地】		A	A：余地はない B：余地はある		
事業		趣旨普及業務				施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い		
所属		介護保険課				事業の成果・分析		介護保険制度の説明用資料としてパンフレットを作成し、配布することで、市民の介護保険制度に対する理解を深めることができた。			
事業概要		介護保険制度の趣旨普及のため、制度説明用資料としてパンフレットを作成し、新規申請者等に配布する。									
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他									
実施根拠		□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度									
根拠法令等		なし									
2 事業実績 (Do)						4 事業の今後の方向性・取組方針 (Action)					
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度	
予算・決算	予算現額 (円)		1,331,000		1,553,000						Ⅲ I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了
	財源内訳	一般財源	0		0						
		特定財源等	1,331,000		1,553,000						
	支出済額 (円)		1,326,050		1,293,380						
	不用額 (円)		4,950		259,620						
	執行率 (%)		99.63%		83.28%						
実施内容		介護保険制度の趣旨普及のため、下記のパンフレットを作成し、配布した。 ①介護保険制度啓発用パンフレット 5,000部 ②介護保険料納入通知書同封パンフレット 45,000部 ③介護保険被保険者証同封リーフレット 2,000部 ④介護保険負担割合証同封パンフレット 11,000部 ①については、認定申請や介護サービスの相談にいらした市民に配布した。 また、②～④については、通知書や証を発送する際に同封した。									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度	
活動指標・成果指標	指標名	単位									今後の取組方針 今後も必要に応じて内容を見直ししながら、パンフレットの作成及び配布を継続する。ホームページ等で周知している内容も含まれるが、高齢者であることを配慮し、紙媒体での周知が必要と考えている。
	作成部数	部	63,000								

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート (対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報 (Plan)						3 事業評価 (Check)					
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】				事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず	
施策領域		第2節 高齢者福祉				事業の必要性 【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている	
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実				事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある	
事業		介護予防普及啓発				施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い	
所属		介護保険課				事業の成果・分析		内容を見直して測定とウォーキング教室の要素を組み合わせで実施した歩き方測定会と、介護予防講演会と同時開催した骨密度・血管年齢測定会については、定員を大幅に超える申込みがあり、測定会に一定のニーズがあることが分かった。 また、介護予防教室（単発型）についてもより自宅の近くで参加しやすくなるよう、令和5年度から大幅に会場を増やし、体力測定会の要素も盛り込んで実施したところ、初めて参加する方も増え、好評であった。介護予防教室（連続型）についても、テーマをはっきりと提示して募集を行ったため、同じ意欲を持つ方が集まり、最終的に自主グループとして成立させることができた。			
事業概要		介護予防普及啓発のための事業を実施する。									
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他									
実施根拠		□国・県の制度 ■国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度									
根拠法令等		地域支援事業実施要綱 等									

2 事業実績 (Do)						4 事業の今後の方向性・取組方針 (Action)										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了		
予算・決算	予算現額（円）		2,705,000		5,821,000											
	財源内訳	一般財源	-298,000		1,654,000											
		特定財源等	3,003,000		4,167,000											
	支出済額（円）		2,107,791		4,836,884											
	不用額（円）		597,209		984,116											
執行率（％）		77.92%		83.09%												
実施内容		市民へ幅広く介護予防普及啓発を行うため、有識者等を招いて介護予防と健康増進に関する意識向上のための介護予防講演会を骨密度・血管年齢測定会と同時開催した。 また、介護予防・健康づくりに取り組むきっかけづくりのため、体力測定会の要素を含めた介護予防教室、にいき元氣アップウォーキング、歩き方測定会及び認知機能測定会を開催した。さらに、介護予防に資する基本的な知識及び市内高齢者相談センター等の情報を掲載した介護予防ガイドブック（あんしん生活編）を作成した。 なお、財源にとらわれず事業評価を行うため、活動指標等を変更した。														
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の取組方針		測定等を行って自分の状態を知りたい市民が多いことから、各種測定会については定員を増やして実施できるよう検討する。 また、介護予防事業に初めて参加する市民を増やすため、短い時間で気軽に参加できる介護予防教室を展開し、どんな内容の事業がより参加してもらえるのか、市民のニーズに合っているのかを検討する。 さらに、新座市民の死因として肺炎が多いことから、誤嚥性肺炎等を予防するための口腔ケアについての普及啓発を重点的に取り入れていく。		
活動指標・成果指標	指標名	単位														
	介護予防講演会参加人数（延べ人数）	人	69		154											
	介護予防教室参加人数（延べ人数）	人	126		474											
	にいき元氣アップウォーキング参加者数（延べ人数）	人	131		177											
	各種測定会参加者数（延べ人数）	人	166		156											

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報 (Plan)

基本政策	第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】
施策領域	第2節 高齢者福祉
施策項目	施策 1 高齢者福祉の充実
事業	地域介護予防活動支援
所属	介護保険課
事業概要	地域における介護予防活動を促進するための事業を実施する。
実施形態	■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他
実施根拠	□国・県の制度 ■国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度
根拠法令等	介護保険法第115条の4 5

3 事業評価 (Check)

事業の実施状況	B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず
事業の必要性 【市民ニーズ】	A	A：高まっている B：変わらない C：薄れている
事業の効率性 【見直す余地】	B	A：余地はない B：余地はある
施策への貢献度	A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い
事業の成果・分析	市の介護予防事業への協力の他、地域で自主的に介護予防活動を行うにぎの元気推進員のフォローアップについて、前年度実施したアンケート結果を基に講座のテーマを設定したため、ニーズに合ったものを実施できた。講座実施の曜日を变えて実施したり、情報交換会とフォローアップ講演会を同日開催として、参加しやすくなるよう工夫したところ、参加者が増加した。 また、健康長寿ポイント事業では、事業概要や取組の周知を行っているが、参加者数が伸び悩んでいる。	

2 事業実績 (Do)

年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算・決算	予算現額(円)	691,000	665,000			
	財源内訳	一般財源	-252,000	312,000		
		特定財源等	943,000	353,000		
	支出済額(円)		392,614	459,806		
	不用額(円)		298,386	205,194		
	執行率(%)		56.82%	69.14%		
実施内容		にぎの元気推進員向けに実施した介護予防活動実践講座について、5回単発型で毎回テーマを変え、参加しやすい形にして実施した。また、ほっと茶やでは、地域の高齢者の介護予防及び健康増進を目的としたサロンを開催した。 さらに、健康長寿ポイント事業では、市が主催する対象事業(介護予防教室等)への参加や自宅で行う体操等の参加者自身が行う健康づくりの取組、対象施設へのボランティア活動に対してポイントを付与し、指定のポイントを集めた方に記念品(おやさい交換券、ソウキリンマグボトル等)を贈呈した。 なお、財源にとらわれず事業評価を行うため、活動指標を変更した。				
年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
活動指標・成果指標	指標名	単位				
	ほっと茶や参加者数(延べ人数)	人	312	327		
	健康長寿ポイント事業参加者数	人	255	239		
	にぎの元気推進員向けフォローアップ講座・情報交換会等参加	人	107	175		

4 事業の今後の方向性・取組方針 (Action)

今後の方向性	Ⅱ	I：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了
今後の取組方針	にぎの元気推進員の活動支援と養成講座が隔年実施となるため、令和7年度はフォローアップ事業を行うことは難しいが、にぎの元気推進員同士の横のつながりを保ち、自身の活動のモチベーションを維持してもらえるような新しい情報を提供するため、情報交換会等を随時実施できるよう検討する。 また、健康長寿ポイント事業については、元気な高齢者だけでなく、要支援高齢者等が参加することで地域に出るきっかけとなるよう、より気軽に参加してもらうための工夫を行い、新たな記念品の検討を行う等、魅力ある内容で健康づくりに取り組むきっかけとなるよう、引き続き検討する。	

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）											
基本政策		第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず								
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		A	A：高まっている B：変わらない C：薄れている								
施策項目		施策1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		B	A：余地はない B：余地はある								
事業		地域包括支援センター事業					施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い								
所属		介護保険課					事業の成果・分析		地域包括ケアシステムを推進する中核機関として、ワンストップサービス窓口、権利擁護、地域のネットワーク構築などの機能を果たすことができおり、地域のケアマネジャー支援である包括的・継続的ケアマネジメント支援件数増加につながっている。特に、高齢者虐待については、令和6年度に高齢者虐待として認定されたケースが複数発生したため、令和5年度と比較して対応件数が大きく増加している。 高齢者相談センター業務の必要性は高まっていると考えられるが、高齢者相談センターの存在や役割については、市民の認知度が十分とは言えない状況である。そのため、今後は、出前介護相談の実施や広報での周知等により一層力を入れていく必要がある。									
事業概要		高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域包括支援センター（高齢者相談センター）が次の事業を行う。 1 総合相談支援 2 権利擁護 3 包括的・継続的ケアマネジメント支援																
実施形態		☐ 市が直接実施 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託・指定管理 ☐ その他																
実施根拠		☒ 国・県の制度 ☐ 国・県の制度＋市独自の制度 ☐ 市独自の制度																
根拠法令等		介護保険法																
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）											
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了				
予算・決算	予算現額（円）		247,495,000		236,562,000													
	財源内訳	一般財源	63,051,000		54,408,000													
		特定財源等	184,444,000		182,154,000													
	支出済額（円）		227,689,224		231,161,400													
	不用額（円）		19,805,776		5,400,600													
執行率（％）		92.00%		97.72%														
実施内容		総合相談：本人、家族、近隣住民、地域のネットワーク等を通じた様々な相談を全て受け止め、適切な機関・制度、サービスにつなぎ、継続的にフォローした。 権利擁護：虐待、悪質な消費者被害の防止や財産管理・日常生活上の契約に係る支援など、高齢者の権利を守る取組をした。 包括的・継続的ケアマネジメント支援：ケアマネジャーや様々な関係機関と連携・協力し、地域の体制づくりを行った。					今後の取組方針		出前介護相談や高齢者相談センター職員の地域活動への参加等によって高齢者相談センターの周知により一層力を入れ、各事業を継続していく。									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度								令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位																
	包括的・継続的ケアマネジメント支援件数	件	282		356													
	高齢者虐待相談対応件数	件	30		160													

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）									
基本政策		第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず					
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		B		A：高まっている B：変わらない C：薄れている					
施策項目		施策1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある					
事業		地域ケア会議推進					施策への貢献度		B		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い					
所属		介護保険課					事業の成果・分析		個別ケースの検討を通して、高齢者相談センター職員や居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員の支援ができています。 しかしながら、居宅介護支援事業所が担当する困難ケースの検討については不十分な状況であることから、より多くの介護支援専門員の支援ができるよう、引き続き市内8カ所の高齢者相談センターと協働しながら実施方法を検討する。							
事業概要		多職種の協働の下、高齢者の個別課題の解決を図るとともに、自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高めるための地域ケア会議を開催する。														
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他														
実施根拠		■国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度														
根拠法令等		介護保険法第115条の48、地域支援事業実施要綱														
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了		
予算・決算	予算現額（円）		2,309,000		2,309,000											
	財源内訳	一般財源	532,000		532,000											
		特定財源等	1,777,000		1,777,000											
	支出済額（円）		2,124,710		2,309,000											
	不用額（円）		184,290		0											
執行率（％）		92.02%		100.00%												
実施内容		各地域包括支援センター等より提供された個別ケースに対し、専門職がアドバイスをし、サービス検討の一助としていただくため、自立支援型地域ケア会議を開催した。 司会：各地域包括支援センター アドバイザー：理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士 ※理学療法士、作業療法士の謝礼は地域リハビリテーション活動支援より支出。					今後の取組方針		より有用な会議となるように、実施方法の検討を続ける。							
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度						令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位														
	開催回数	回	12	12												

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）									
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず					
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている					
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある					
事業		在宅医療・介護連携推進					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い					
所属		介護保険課					事業の成果・分析				在宅医療・介護連携推進事業は、本市の第9期新座市高齢者福祉計画・新座市介護保険事業計画における重点施策として位置付けられており、今後より一層の高齢化が見込まれる中で市内医療機関・介護事業所及び朝霞地区4市などとの間で意見交換や連携した取組を行い、医療と介護連携推進のための仕組みづくりを構築できた。 同時に市民だけでなく、医療・介護従事者向けの人生会議（ACP）の普及啓発にも注力し、より多くの関心を高めることにつながった。 朝霞地区4市共通の課題に対しては、4市合同で取組を実施するなど業務の効率化にも努めた。より一層の普及に向けて検討・実施していく必要がある。					
事業概要		医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域における在宅医療・介護サービス事業所との連携・協力体制の整備を図る。 また、在宅医療と介護サービスを一体的に提供するため、医療機関と介護サービス事業者などの関係者を対象とした研修会や、地域住民を対象とした出張講座を開催する。														
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他														
実施根拠		■国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度														
根拠法令等		介護保険法第115条の45														
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了		
予算・決算	予算現額（円）		6,808,000		7,086,000											
	財源内訳	一般財源	1,565,000		1,630,000											
		特定財源等	5,243,000		5,456,000											
	支出済額（円）		6,377,783		6,675,767											
	不用額（円）		430,217		410,233											
執行率（％）		93.68%		94.21%												
実施内容		朝霞地区4市で協定を締結し、在宅医療・介護連携拠点として、広域的に在宅医療介護連携推進事業を推進するために朝霞地区医師会地域包括ケア支援室に業務委託をした。 情報の共有を図るため、MCS（メディカルケアセッション）の説明会を行った。また、情報連携する際に有用な情報を掲載した朝霞地区医療・介護連携推進「お助けガイド」を作成し、円滑な情報連携の推進に努めた。 人生会議（ACP）の普及啓発のため、地域住民へ市民講座や出前講座、医療・介護従事者向け研修を行った。さらにエンディングノートやチラシを作成し、市民等に配布した。					今後の取組方針		地域課題を改善するための施策を検討しながら、今後も定期的にアンケートや意見交換会、担当者会議などで現状把握・課題の抽出を行い、医療機関や介護事業所、朝霞地区4市等と連携・協力を図り、地域のあるべき姿を共有し、あるべき姿と現状の乖離を埋めていけるよう、より一層の医療及び介護の連携の推進を図るための取組を実施していく。							
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度						令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位														
	MC S登録事業所数	か所	47		58											
	地域包括ケア支援室問合せ・相談件数	件	61		69											
	地域住民・関係者向けの講座参加者数	名	369		354											
	エンディングノート配布数	冊	910		1189											

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1

事業基礎情報（Plan）

基本政策	第1章 基本政策1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】
施策領域	第2節 高齢者福祉
施策項目	施策1 高齢者福祉の充実
事業	生活支援体制整備
所属	介護保険課
事業概要	介護保険法第115条の4第2項第5号に規定する事業を推進するとともに、地域における支え合いの生活支援体制づくりを推進することを目的に、住民主体の支え合いの生活支援体制に対して助成を行うため、一般会計へ繰出しする。
実施形態	☐ 市が直接実施 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託・指定管理 ☐ その他
実施根拠	☒ 国・県の制度 ☐ 国・県の制度＋市独自の制度 ☐ 市独自の制度
根拠法令等	介護保険法第115条の4第2項第5号

3

事業評価（Check）

事業の実施状況	B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず
事業の必要性【市民ニーズ】	B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている
事業の効率性【見直す余地】	B	A：余地はない B：余地はある
施策への貢献度	B	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い
事業の成果・分析	第1層及び第2層協議体の開催や本事業に関わる取組を行う地域団体等とのネットワークづくりを通じて、地域の支え合いの仕組みづくりに寄与することができた。 新座市社会福祉協議会に本事業を委託するとともに、生活支援コーディネーターを増員し、事業の推進体制の強化を図った。 また、本事業と同様に地域福祉圏域で活動している「地域福祉推進協議会」との連携の強化や組織体制の見直しに向けて、協議を行った。今後は、各地域の「地域福祉推進協議会」との連携状況を踏まえながら、より効果的な地域のネットワークづくりを進めていく必要がある。引き続き、本事業への助成を行う。	

2

事業実績（Do）

年度			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算・決算	予算現額（円）		27,082,000	32,000,000			
	財源内訳	一般財源	7,854,000	7,360,000			
		特定財源等	19,228,000	24,640,000			
	支出済額（円）		27,081,498	32,000,000			
	不用額（円）		502	0			
	執行率（％）		100.00%	100.00%			
実施内容			地域における高齢者、障がい者、子どもといった様々な課題を分野ごとではなく包括的に、地域において支え合い、助け合いながら解決していく仕組みづくりを行った。 事業の実施に当たっては、第1層（市全域）及び第2層（6圏域）に生活支援コーディネーターを配置するとともに、地域住民による協議体を開催し、地域の支え合いづくりについて協議を行い、事業を推進した。当該事業への助成を行うため、一般会計への繰出しを実施した。				
年度			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	指標名	単位					
活動指標・成果指標	第1層協議体の開催（市全域）	回	3	3			
	第2層協議体の開催（6圏域）	回	61	64			
	生活支援コーディネーターの配置人数	人	7	9			

4

事業の今後の方向性・取組方針（Action）

今後の方向性	Ⅱ	Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了
今後の取組方針	引き続き新座市社会福祉協議会へ本事業を委託して実施するとともに、各地域の「地域福祉推進協議会」との連携状況や第4次地域福祉計画に位置付けている地域福祉の拠点の整備状況を踏まえながら、より効果的な地域のネットワークづくりを進めていく必要がある。引き続き、本事業への助成を行う。	

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）									
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず					
施策領域		第2節 高齢者福祉					事業の必要性 【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている					
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実					事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある					
事業		認知症地域支援・ケア向上					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い					
所属		介護保険課					事業の成果・分析 令和6年度は市内7カ所（新設2カ所）でカフェを実施し、認知症の人やその家族、そして地域の方がより参加しやすい体制に努めた。 また、社会参加の場となる認知症カフェは、認知症の人やその家族にとって非常に重要な役割を果たすため、必要性が高いと判断した。									
事業概要		認知症等の高齢者が、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、以下の事業を行う。 1 認知症地域支援推進員の設置 2 オレンジカフェ（認知症カフェ）の実施														
実施形態		☐ 市が直接実施 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託・指定管理 ☐ その他														
実施根拠		☐ 国・県の制度 ☒ 国・県の制度＋市独自の制度 ☐ 市独自の制度														
根拠法令等		地域支援事業実施要綱、新座市認知症地域支援・ケア向上事業実施要綱 等														
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了		
予算・決算		予算現額（円）		2,860,000		3,200,000										
		財源内訳		一般財源		657,000		736,000								
				特定財源等		2,203,000		2,464,000								
		支出済額（円）		2,640,000		3,090,000										
		不用額（円）		220,000		110,000										
執行率（％）		92.31%		96.56%												
実施内容		医療と介護の連携を強化し、認知症施策の推進役及び認知症の人やその家族を支援する相談業務等を担う認知症地域支援推進員を設置した。 また、認知症の人とその家族を支援するために、オレンジカフェ（認知症カフェ）を開催し、気軽に立ち寄れる地域の場を提供した。					今後の取組方針		オレンジカフェは8圏域すべてにおいてカフェの実施を目標としており、残り1か所についても関係者とともに実施に向けて協議を進めていく。 また、各カフェの資質向上のため、高齢者相談センター、認知症地域支援推進員の協力を得ながら、実施していく。							
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度						令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標		指標名		単位												
		認知症地域支援推進員人数		人		10						10				
		オレンジカフェ（認知症カフェ）実施場所		か所		5						7				

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート

(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報 (Plan)						3 事業評価 (Check)						
基本政策		第1章 基本政策 1 みんなにやさしく誰もが幸せを感じるまち【福祉健康】				事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず		
施策領域		第2節 高齢者福祉				事業の必要性【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている		
施策項目		施策 1 高齢者福祉の充実				事業の効率性【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある		
事業		家族介護支援				施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い		
所属		介護保険課				事業の成果・分析		身体介護に特化した家族介護教室をコロナ禍以来、久しぶりに実施したが参加者の満足度が高く、在宅介護を踏まえた介護技術の習得は非常に重要であると思われる。また、令和6年度は市内郵便局をはじめとした事業所等に対し、認知症サポーター養成講座を実施することができた。認知症の人の増加に伴い、認知症に対する理解を促進するため、今後も講座を実施していく。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2～4年度は講座をほとんど実施できなかったため、令和5年度は講座実施数及び養成人数が大幅に増加した。令和6年度は令和5年度より実施数及び養成人数が減少したが、事業開始以降の平均値と比べると増加している。				
事業概要		認知症等の高齢者の在宅介護等を支援するため、次の事業を行う。 位置探索機の貸出し／家族介護者教室事業の実施／認知症サポーター養成講座の開催／認知症サポーターフォローアップ事業の開催／認知症高齢者見守り模擬訓練の実施／高齢者見守りステッカーの配布										
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他										
実施根拠		□国・県の制度 ■国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度										
根拠法令等		地域支援事業実施要綱、新座市ひとり歩き高齢者等家族支援サービス事業実施要綱 等										
2 事業実績 (Do)						4 事業の今後の方向性・取組方針 (Action)						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
予算・決算	予算現額 (円)		2,520,000		2,205,000							
	財源内訳	一般財源	-1,253,000		1,954,000							
		特定財源等	3,773,000		251,000							
	支出済額 (円)		1,834,802		1,957,489							
	不用額 (円)		685,198		247,511							
執行率 (%)		72.81%		88.78%								
実施内容		認知症の人を介護する家族を支援するために、位置探索機の貸出しや高齢者見守りステッカーの配布、家族介護教室を実施した。また、認知症の人を見守り、地域で支え合う共生社会の実現のため、認知症サポーター養成講座や認知症サポーターフォローアップ講座、認知症高齢者見守り模擬訓練を実施した。										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位										
	位置探索機の利用者総数	人	24		20							
	高齢者見守りステッカーの利用者総数	人	197		255							
	認知症サポーター養成人数	人	913		793							
	認知症高齢者見守り模擬訓練実施回数	回	8		8							
今後の方向性		II		I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了								
今後の取組方針		認知症の人を介護している家族が本当に必要としているものに対応できるよう、家族のニーズをヒアリングする機会を設けながら各事業を実施していく。また、より効果的に実施するため、さらなる周知に努め、関係各所と連携しながら進めていく。										